

レオナルド・ダ・ヴィンチ記念
国立科学技術博物館
*Museo Nazionale della Scienza e della Tecnica
Leonardo da Vinci*

吉田 英生 (京都大学)
Hideo YOSHIDA (Kyoto University)
e-mail: yoshida@mbox.kudpc.kyoto-u.ac.jp

1. はじめに

Leonardo da Vinci (1452-1519)の名画“受胎告知”が Firenze のウフィチ美術館(Galleria degli Uffizi)から東京国立博物館に移送され、3月20日から公開されて話題となっている¹。Renaissance期の万能の天才 Leonardo については膨大な研究や文献があるので、専門家でもない筆者が取り上げることは避けたいが、その名前を冠する博物館(伊：<http://www.museoscienza.org/default.asp>, 英：<http://www.museoscienza.org/english/Default.asp>：もちろん伊の方が充実しているが英の方でも相当な充実度である)を2007年3月末に訪問することができたので、この機会にご紹介させていただく。

2. 生誕500年記念の博物館

この博物館は Leonardo da Vinci の生誕500年を記念して、1953年に Milano の Olivetan 修道院の建物を利用して開館した。博物館は、やはり Leonardo の“最後の晩餐”で有名なサンタ・マリア・グラッツェ教会 (Santa Maria delle Grazie) の南方400mほどのところに位置する。図1のように入り口は控えめだが、広大な敷地内に3つの建物が配置され(図2, 図3)、太古から現代に至る広範囲な科学技術に関して展示がなされている。鉄道、船、潜水艦、飛行機などの実物の展示も数多い。古代ローマから中世の Renaissance にかけて世界をリードしてきたイタリアならではの博物館の味わいがある。図1にも写っているように、小・中学生さらに高校生の社会見学の集団に数多く遭遇したことからも、この博物館は国民に広く愛されて活用されていることが理解できた。

¹ Mussolini 時代の1935年にパリで“イタリア美術展”と1939年にミラノで“レオナルド・ダ・ヴィンチ展”に国威発揚をねらって出展されたのを除けば、これまで館外不出だったという。(ダ・ヴィンチの秘密, 上, 朝日新聞2007年3月13日, 朝刊)



図1 正面玄関



図2 入口の案内板



図3 中庭を望む



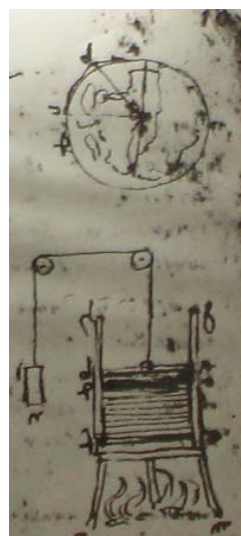
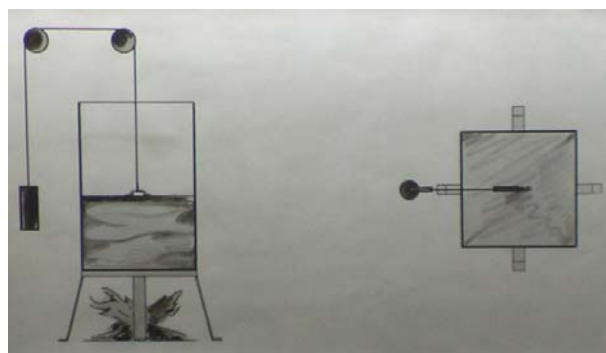
図4 Leonardo Gallery

3. Leonardo Gallery

Firenze 近郊の Vinci 村で生まれた Leonardo は 14 歳で Firenze の Verrocchio 工房に入った後、30 歳で Milano に移る。そして 60 歳で Milano を去るまで Leonardo の活動拠点はまさしく Milano であった。そのような縁で、この博物館の圧巻は、なんといっても“Leonardo Gallery”である。入り口の左側には図 4 のように、ウィトルヴィウスの人体図 (De mens van Vitruvius) があり、壁の向こう側には最後の晩餐の大きな複製図が掲示されている。“Leonardo Gallery”の詳細については博物館 HP から引用しよう。

One of the main attractions of this great Museum is its display of over one hundred models illustrating the work of Leonardo, foremost engineer and technologist of his era. The models depicting Leonardo's designs are of educational value first and foremost, since they allow the non-specialist public, particularly schoolchildren, to appreciate an interpretation of drawings which in themselves are not always easy to comprehend. Most of the models were constructed for the exhibition of 1952 organised by the National Committee honouring Leonardo in the fifth centenary of his birth (1452). Every Sunday starting from June 18 till Sept. 10 an english speaking guide will be available at the entrance of the Science Museum for free guided tours of the Museum, particularly of the Leonardo section.

いうまでもなく Leonardo は、画家 (ただし完成品は数えるほど)、建築・土木・機械工学、さらに解剖学などのあらゆる分野に第 1 級の仕事をした天才である。工学の中でも、とりわけ飛翔に関する研究は先駆的で、また渦の図などもよく描いて流体力学に深い関心を寄せていた。その Leonardo



Device for measuring water turning to steam

The instrument devised by Leonardo was used for carrying out experiments and measuring the expansion and pressure of steam. The device consists of a container filled with cold water. The container has a lid with a weight attached to it. When the fire is lighted, the water is heated and it gradually increases in volume. The weight outside tends to fall, thus measuring the pressure exerted by steam against the lid of the container. The whole experiment could be watched through a membrane stretched tightly over the lid of the container.

(展示説明文をそのまま引用)

図5 水蒸気の圧力を測定する装置

と熱の接点はあるのかどうかというのが、筆者の素朴な疑問であった。

Leonardo Gallery には、Leonardo が設計・考案した機械や装置の模型が 20 点ほどゆったりと展示されている。博物館の所蔵品は膨大であるので、この展示はおそらくときどき入れ替えられるのであろうと思われるが、筆者が訪問した際には、幸い熱に関する展示を二つみつけることができた。

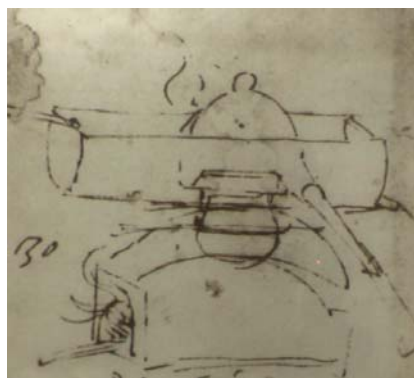


図7 イタリアでは、何でもローマ風に
上図：蒸気機関(1850年ころ)の柱に注目
下図：鉄道の父 Stephenson の像

Continuous cooling distiller

The characteristic feature of this alembic was a very broad condensing surface. The section in which the fire was produced was separated from the one containing the cooling water by a central section exposed to air. This system was designed to reduce the sudden change in temperature, which would damage the glass and ceramic containers.

The folio comprises the drawing of an alembic and the inscription referring to it: *How to obtain a clearly distilled liquid. Make sure that the water flows throughout the alembic.*

(展示説明文をイタリックを含めてそのまま引用)

図6 蒸留器

一つは図5に示す水蒸気の圧力測定装置，もう一つは図6に示す蒸留器である。さらに，燃焼にまで対象を拡張すると Conducted-flame furnace という模型も展示されていた。やはり万能の天才 Leonardo は熱にも関心を寄せ，独創的な発明をしていたのだ！ 今さらながら Leonardo の多才ぶりに感嘆させられた瞬間であった。

4. おわりに

イタリアではローマ帝国以来の遺産があらゆるところに分布しており，2000年以上の歴史の重みが人々の心の底にしっかりと宿っているように思われる。図7もその一例であろう。

ローマの遺跡では卓越した土木・建築技術，また中世の石造りの大聖堂や鐘楼などでは巨大さと途方もない労力のすごさと技術の高さに圧倒される。このような建築に関する展示説明だけは当博物館には少ない（ほとんどない？）ように思われる。あえて博物館内に模型を展示しなくても現物がイタリア国内にいくらかでも存在しているのだから必要ないのかもしれないが，イタリア国内を旅して大聖堂などの威容に圧倒された筆者は，時間を見つけて別途調査したいと思っている。

なお，Leonardoに関するイタリア語・英語の資料（さらに解剖図については厳密な日本語訳も入手可）は，当博物館よりもスフォルツァ城（Castello Sforzesco <http://www.milanocastello.it/intro.html>）の正面左側にある Book Shop に比較的多数揃えられており，旅行者には便利であることを付記する。